

第3回この国のあり方に関する研究会記者会見録

日時 : 平成22年1月12日(火) 18:00～18:20

場所 : 都道府県会館6階知事室

出席知事: 野呂三重県知事(座長)

加戸愛媛県知事(座長代理)

中川全国知事会事務総長

(事務局)

本日は、座長の野呂三重県知事と座長代理の加戸愛媛県知事に出席いただいております。配付資料は、お手元の会議次第、出席者名簿、討議資料1及び2です。それではまず野呂知事から。

(野呂三重県知事)

はい、それでは私の方からご報告を申し上げます。今日は、第3回目の研究会でございました。今日の研究会には10名の知事さんから、お手元に名簿行ってますね、この10名の知事さんがご出席をいただきまして、1回目、2回目よりも、今日はさらに多くの知事さんにご参加いただいたということでございます。

研究会の顧問でございます神野先生、それから委託研究事業でレポートを神野先生とご一緒にまとめていただきました井手先生、お二人の先生にご出席をいただきました。

まず、研究会の最初の部分では、この両先生から少しこの間のレポートを補足するような形でのご意見をいただきまして、その上で意見交換をしたところでございます。

それからその後、今日の研究討議であります「この国のあり方の実現に向けて」、これは皆さんのお手元に行っております討議資料1、2につきまして、意見交換を行わせていただいたということでございます。

まず、両先生との意見交換でございますけれども、その中で色々出ておりましたのが、神野先生から「成長戦略策定会議」に出られて少し言われた意見等がありましたが、そういう意味では、産業政策について競争的な産業あるいはセーフティネット的産業、こういった産業政策について、特に競争的産業政策について、これの地方の役割等についての意見が出ておりました。地方にもその役割がある、あるいは地方でできるものがあると、こういう意見につきましては、両先生から、特に神野先生の方から、それについてほぼ同じような感

覚でお答えもありました。

その後、教育、人づくりについて等も、意見・重要性を述べられている方がおりました。

あと、政府の信頼性の問題だとか、あるいは財源の問題についてのお話も出ておりました。両先生の方から、直接的あるいは間接的なお答えもありましたが、それぞれご意見があって意見交換をさせていただいたところでございます。

それからそのあと研究討議の方に入ったんですけど、前半部分で相当時間をとっておりましたので、後半部分、なかなか時間がない中で、30分オーバーしたところでございます。討議資料を見ていただいても分かる通り、色々な論点がございました。

今日は特に、この「生き生きと働ける社会」、その中でのやはり、産業政策についての意見が多く出ておまして、前半はそういった議論で終始をしたところでございます。

その他ですね、教育・人づくりの問題であるとか、インフラの問題であるとか、あるいは、この討議資料2にありますような国民負担に関する意見が出ておりました。こういった議論も逃げずにやっていくべきだという意見も出ておったところでございます。

今日は各般、色々なご意見をいただきましたけれども、3月の11日に次回予定をしております。今日出た意見、さらに3月11日に議論をさらに重ねてやりまして、まとめに入っていくということになります。私の方から以上、簡単ですがご報告をしておきます。座長代理の方からどうぞ。

(加戸愛媛県知事)

いや、特にありません。10人の知事の皆さん方、複数回にわたる積極的活発なご意見、近来にないぐらいな形で充実した会だったと思います。

【質疑・応答】

(記者)

3月次回ということで、次回で最終まとめをするということによろしいでしょうか。

(野呂三重県知事)

相当広範にわたる議論でございますので、まだ最終出口をどういうふうにするのかということまで、決めかねているところでありますけど、3月11日には、少なくとも今日の議論の続きをやりまして、そのあと最終まとめに入っていくということになろうかと思っております。

ただ、意見も、今日もかなりの論点について十分に意見交換をできておりませんので、例えば文書での意見提出を求めるとか、少しまとめに入る前に、議論の詰め方についても工夫を考えていきたいと思います。

予定としては、3月中にということを考えておりましたが、知事会議での報告というのは、5月の知事会、ないしは夏の知事会ということなので、少しそういう意味では議論があまりないまま、拙速にということではなくて、少し工夫をしてみたいと思います。

(記者)

政府の新年度予算案であるとか、そういう具体的な話題についての議論というのはあったのでしょうか。

(野呂三重県知事)

特に、今年の、来年度予算案の問題についてやったわけではありませんけれども、さっきも少し含みましたけれども、今年のずいぶん財源問題、色々とおったわけですが、来年大丈夫なんだろうかと、そういう議論もございました。

(記者)

討議資料の2の方に、「公共サービスから見た政府のあり方」の中の) 論点2(「生涯を通じて不安のない社会の実現」)の(二つ目の)○なんですけど、来年度予算にしろ財源の話が中心だったということですが、「原則として現金給付は中央政府、現物給付は地方政府で対応」とありますけど、これは「こども手当」で2011年に向けてのなんかきな臭いにおいがするんですけど、その辺はいかがなんでしょう。

(野呂三重県知事)

「こども手当」については、討議資料1のところの右側のところに「こども手当」の充実というのを書いてあるのですが、この「こども手当」というのは、民主党が打ち出してきた政策そのものの生々しい言葉にもなりますので、ここら辺の書く工夫ももっとしたらどうだということですが、現金給付、それからサービス給付の問題については、最後までに少し詰めていかなければならない課題ですということで、私の方で整理して申し上げたところで、具体的に今日議論はできなかったところでございます。

(記者)

一応今日議論は、特にまとまらなかった、議論が出ただけということですか。

(野呂三重県知事)

今までの議論も、1つ1つ結論を出してまとめていくと、そういう形よりも、むしろ色々な意見をいただいた中で、その次の時に少し整理をして、論点整理という形で議論を進めてきたということです。

ただ、これも今後は最終に入っていきますから、どの程度の議論を深め、どの程度の表現でまとめていくのかというのが、最後これから重要なところだと思っております。

(記者)

今日、もうちょっと具体的な議論が出たというのを教えていただければ。

(野呂三重県知事)

例えば産業政策のところ、この討議資料1の論点1、これの議論が、ご意見がかなり多く出たのでありますけれども、こういうふうに競争的産業と、地域密着型・生活密着型産業政策というような、そういうような分け方が良いのだろうか、あるいは競争的産業については、ここで、次世代産業の展開と書いてありますが、むしろ地方の役割も入れて、そういうシーズを生み出していけるようなそういうことがもっと大事ではないか、あるいは展開していくというよりもその土壌づくりというのが大事ではないかと、こんな意見も出てましたし、逆に競争的産業と地域密着型のこういう分け方も1つの重要性があるのではないかという意見、あるいは、いやそれは2つが重なるのではないかというような、そういう意見もございました。

それからインフラ整備については、将来投資しても、回収できるようなそういうことをしっかり評価できるような、仕組みも大事ではないかという意見、それから雇用についても、今度高校生の卒業の未就職の話等もありますが、むしろ4月1日に一斉に雇用するというのではなくて、もっと柔軟な方法が必要なのではないかとか、それから、この討議資料2で「国民負担のあり方」っていうところがありますが、こういう低福祉だとか、中福祉だとか、高福祉だとか、こういった負担論の書き方についても、もっと注意をしていくべきだという意見、あるいはこういう負担論は、逃げずに議論すべきだという議論も出ておりました。

ここには一応論点として、三重県の方で整理をさせていただいたことで書いておりましたが、表現の仕方についての意見もございました。

今日は時間がオーバーしながら十分ではなかった。それからこれまでだいたい6名か7名で、今回は10名の知事の皆さんがご出席いただいたので、余計

少し時間がかかったような気がいたしました。

－以上－